

平成29年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立豊新小学校

平成30年3月

大阪市立豊新小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校教育目標

◇豊かな心をもち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる

- ・たくましい身体になる子ども
- ・ゆたかな心をもつ子ども
- ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標

現状と課題

児童は素直で明るく、元気よくあいさつのできる児童が多い。また、ここ数年、重篤な問題行動もなく、安定した学校生活が送れている。学習規律も多くの児童が守れており、学習にも真面目に取り組み、特に、体験的な学習活動を好んでいる。さらに、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組んでいる。たて割り班活動では、高学年児童は低学年児童を優しい心を持って接し、低学年児童は高学年児童に対して尊敬の念を持って親しんでいる。地域や保護者も学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができている。

しかしながら、年々、学力および体力の向上は見られるが、全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の結果においては、平均正答率をわずかながら下回っている。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、男女とも握力を除いては全国平均を下回っている。

そこで、この3年間の「言語活動の充実」を目指した研究をベースとし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指し、日々の反復学習や体験的な学習、ICTを効果的に活用した協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法のさらなる工夫、また、平成32年度の新学習指導要領の完全実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」について研究を深め、教育実践を進めていく必要がある。さらに、外国語活動については、本市に先駆けて中学年で実施してきた強みを生かし、学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着、低学年への広がりを目指していきたい。

体力の向上に関しては、豊富な運動量を確保した体育科授業の推進、運動を楽しく取り組むきっかけ作りとなる、なわとび週間やかけ足週間、スポーツ集会などの学校全体としての取組、みんな遊びなどの学級での取組など、児童が生涯にわたって進んで運動をする意識の向上を図っていきたい。

また、自己肯定感や自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる優しい心を育める取組の充実が必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成 32 年度末の校内調査において、不登校になる児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

学校の目標

- 自他ともに認め合い、思いやりのある子どもを育成するとともに、心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を年に 1 回、計画的に実施する。さらに多様な体験活動（社会見学）を 3～6 年生で実施する。
- 平成 32 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 32 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成 28 年度より 9 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、平成 28 年度よりそれぞれ 10 ポイント、10 ポイント、12 ポイント向上させる。

学校の目標

- グローバル化の進む国際社会において生き抜く力を備えた児童を育むため、ICTを活用した教育の推進、外国語活動の深化充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「ICTを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 90%以上にする。
- 授業力の向上を目指し、授業研究を伴う校内研修の充実を図り、平成 32 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、毎年、90%以上にする。
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上（平成 28 年度 87%）にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。
- 平成 29 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上（平成 28 年度 84%）にする。
- 平成 29 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（平成 28 年度 83%）にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（平成 28 年度 76%）させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、3 ポイント（cm）向上させる。

学校の年度目標

- 平成 29 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、ともに 85%以上にする。
- 平成 29 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（平成 28 年度 89%）にする。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント）させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

◇施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

学期に一度いじめアンケートを実施し、一人ひとりから聞き取りをしてきた結果、認知した事案については全て解消されている。また、きまり・規則を守ろうとする姿勢も育ってきており、今年度、特に暴力行為として取り上げる事案はなく、安全で安心な教育環境が整ってきた。

◇施策2 道徳心・社会性の育成

計画通りに芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）や社会見学が実施され、子どもたちの情操や社会への理解を深めることができた。自己肯定感を問うアンケートでは、肯定的に答える児童の割合は、昨年度と同じ数値で目標は達成することができなかった。次年度から道徳が教科化される。自己肯定感が高められるよう、様々な視点・観点から計画的に指導していく必要がある。

◇施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

学級文庫の充実、図書室の配置換え、東淀川図書館からの貸し出し、地域ボランティアによる朝の読み聞かせや休み時間の図書館開放、児童図書委員会の精力的な活動などにより、児童がより読書に親しめる機会や場を増やすことができた。次年度もさらに取り組みを促進させていきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

◇施策5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組

大阪市小学校学力経年調査に関する年度目標は多くの項目で達成することができなかった。しかしながら、学習指導に関する校内研修会も充実し、「授業の内容は理解できる」のアンケート項目では91%の児童が肯定的に答えている。今後、結果につながるよう、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業デザインを構築し、学習指導を進めていく。

◇施策6 国際社会において生き抜く力の育成

授業の様々な場面でICTを効果的に活用し、年間を通して授業実践することができた。さらに、児童もタブレットを活用することで、様々な視点で考え、興味を持って学習に取り組み、目標値を大きく上回るとともに、学校情報化優良校にも認定された。また、英語モジュール学習、ネイティブの指導、教員研修の充実などにより、児童も楽しみながら興味を持って活動に取り組むことができた。

◇施策7 健康や体力を保持増進する力の育成

年間を通しての様々な体育的行事や取組、また、体育の授業では基礎体力向上を目指した準備運動の取り入れなどにより、目標値を達成することができた。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標 ○平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○平成29年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%(平成28年度87%)以上にする。 ○平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に(学期に1度)実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。	B
指標 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。	B
指標 平成29年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(平成28年度87%)にする。 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。	B
指標 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 学期に一度いじめのアンケートを実施し、一人一人から聞き取りをして解消に向けて取り組んだ。また、日々のトラブルやもめ事についても、その都度、解決できるようにしてきた。その結果、認知した件についてはすべて解消されている。</p> <p>② アンケートの結果は、中間評価時の 91%からさらに上がり、93%と目標値を上回った。日常的に全教職員で指導を続けた結果、きまり・規則を守ろうとする姿勢が育っている。また、特に暴力行為として取り上げる事案はなく、安全で安心できる教育環境が整ってきた。</p> <p>③ 必要に応じて、区役所やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携を図り、改善に向けて取り組んできた。その結果、新たに不登校になる児童はいなかった。</p>
次年度への改善点
<p>① 次年度も継続して、いじめのアンケート調査を定期的に（学期に 1 度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において 1 つ 1 つ事案を解消していく。</p> <p>② 生活指導部を中心に、現在の児童に実態に合わせた学校のきまりを再検討し、全教職員で共通理解し、次年度も細かいところまでていねいに指導していく。</p> <p>③ 不登校児童への対応については、学校だけでは限界がある。諸機関とさらに強く連携し、様々な立場から働きかけをしていく。</p>

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。</p> <p>○平成 29 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（平成 28 年度 83%）にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p> <p>指標 年間行事計画に基づき、音楽鑑賞行事、3～6 年生で社会見学を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>区のゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、「子どものストレスマネジメント」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、相手思いやる心を育成する。</p> <p>指標 平成 29 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（平成 28 年度 83%）にする。</p> <p>5 年生を対象に「子どものストレスマネジメント」の教育事業、6 年生を対象に「いのちと性」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を 1 回ずつ実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 計画通りに音楽鑑賞（10/26）や社会見学（3 年：6/23 大阪市役所 1/17 明治製菓 3/9 大阪くらしの今昔館 4 年：5/19 柴島浄水場 6/16 東淀川区焼却工場 9/22 大阪市立科学館 5 年：11/2NHK・大阪府警 1/12 ダイハツ 6 年：12/14 ピース大阪）が実施され、子どもたちの情操や社会への理解を育てることができている。</p> <p>② 区のゲストティーチャー派遣事業を、5 年生を対象に「子どものストレスマネジメント」の教育事業を 11 月 13 日、6 年生を対象に「いのちと性」の教育事業を 12 月 11 日、「子どもの情報教育」の事業を 7 月 3 日にそれぞれ実施した。さらに「いのちと性」の教育事業については 4 年生でも 11 月 6 日に実施した。専門家の指導により、よい学びができた。自己肯定感については、肯定的に答えた児童は 83%と目標値を少し下回ったが、中間評価時 82%よりは向上が見られた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 次年度は区の事業を活用して演劇鑑賞を、また 3～6 年では実際に体験を体感できる内容の社会見学を実施し、引き続き心豊かな子どもの育成を図る。</p> <p>② 情報モラル教育については、企業等の教育事業を活用し、自分や他者の価値を尊重する心を育成する。自己肯定感を育てるには、日常的に意識し、継続した取り組みが必要である。道徳が教科化される。自己肯定感をさらに高められるよう、様々な教材・観点から指導していく必要がある。</p>	

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○平成 29 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上（平成 28 年度 84%）にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 指標 平成 29 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 86%以上（平成 28 年度 84%）にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 学級文庫に児童が希望する本を入れるなどして充実を図ったり、図書室のレイアウトの変更や、おすすめの本のコーナーをわかりやすい場所に移動したりした。また、東淀川図書館からの貸し出し、ボランティアの支援、図書委員による休み時間の開放など、様々な形で、児童が本に親しむ機会を増やしたので、平成 29 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 86%で、目標（86%）を達成することができた。	
次年度への改善点	
① 児童が好きな新しい本を増やすなど、学級文庫の充実を図る。さらに、全校一斉での朝の読書タイムを設けるなど、児童がより読書に親しめる機会を増やして、基礎学力の定着へつなげていく。	

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれのテストも前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（平成 28 年度 76%）させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 29 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（平成 28 年度 89%）にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。</p> <hr/> <p>指標 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。</p> <p>平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 8 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p>	C
<p>取組内容②【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。</p> <hr/> <p>指標 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（平成 28 年度 76%）させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。</p> <hr/> <p>指標 平成 29 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（平成 28 年度 89%）にする。</p> <p>全教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を 8 回以上（平成 28 年度 7 回）行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させることはできなかった。（４年生の国語・理科は向上した。）同じく、正答率５割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント減少させることはできなかった。同じく、正答率８割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント増加させることはできなかった。（６年生は増加した）
②	小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合は、前年度と同じく 76% だった。
③	平成 29 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 91% で目標（90%）を上回ることができた。全体研修会も 11 回した。
次年度への改善点	
①	子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組として、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを引き続き行う。
②	単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように引き続き工夫する。
③	テーマや主題の検討を十分に行いながら、児童の実態に即した全体研修会を計画する。校外研修会への参加に際しては、自習体制、全体校時の調整を行うなどして、お互いが高められるような体制作りをする。今後も計画的に研究授業および研修会を引き続き実施する。

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 学校の年度目標 ○平成 29 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」、「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。 指標 平成 29 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。	A
取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。 指標 平成 29 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ICT の活用方法についての教員研修が行われたので、授業での実践の幅が広がった。授業で大型モニタやデジタル教科書を使い、課題をわかりやすく提示することができた。また、児童はタブレットを活用することで、様々な視点で考え、興味を持って学習に取り組んでいる。さらに、2 年・3 年・5 年・6 年でプログラミングにも取り組むことができた。平成 29 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 95%で、目標（85%）を大きく上回った。I C Tの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させることができた。学校情報優良校にも認定された。 ② 平成 29 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 87%で、目標（85%）を上回った。校内外の教員研修を実施するなどして、外国語活動・英語教育の指導法を共有してきた。	
次年度への改善点	
① I C Tの効果的な活用方法についてさらに指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。特に、児童のタブレットの利用率を高めるため、活用場面の研修を充実させていく。 ② 平成 32 年度の新学習指導要領実施に向けて、次年度からは移行期間となる。本校で今まで取り組んできた外国語活動、英語教育をさらに充実させ、モジュール学習とともに、年間を通して計画的に学習を進めていく。	

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、3 ポイント（cm）向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント）させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。</p> <hr/> <p>指標 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、3 ポイント（cm）向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間を通して工夫する。</p> <hr/> <p>指標 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント）させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 体育の学習ではラダーや小さいハードルなどを使用した準備運動を取り入れ、児童の敏捷性を向上させる指導を取り組んできた。結果は、反復横とび（男子 32.37→32.12、女子 30.67→29.24）、20m シャトルラン（男子 40.37→66.26、女子 36.03→47.47）、立ち幅跳び（男子 135.83→139.36、女子 133.60→140.75）で、反復横とび以外の種目については目標数値を上回り、全体的に体力が向上したといえる。</p> <p>② 全校でのかけ足週間やなわとび週間など、体力向上に向け計画的に行うことができた。これらの学校行事だけではなく、体育の学習を通して体を動かす工夫をしてきた。結果、目標を達成することができ（男子 50.00 ポイント、女子 53.03 ポイント）、確実に一人ひとりの運動に対する興味関心は高くなってきている。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 児童の体力向上を目指し、体育の学習を通してながら敏捷性を伸ばせる指導法の工夫をしていく必要がある。また敏捷性のみならず、技能面の向上も目指し、単元によって指導法の工夫・研修を計画していく。</p> <p>② 今後もスポーツテスト（5/9～5/11）・なわとび週間（11/6～11/17）・スポーツ集会（12/12）・かけあし週間（1/22～2/2）などの体育的行事や取組を継続するとともに、運動やスポーツに興味・関心を持てるよう、体育の授業を中心に指導していく。また児童が運動場で安全に運動できる環境を整備していく。</p>	